

葦原中だより

学校だより

3月号

在籍生徒数

3月1日現在
 1年 80名
 2年 104名
 3年 100名
 にじいろ学級 7名

学校所在地

〒356-0001
 ふじみ野市川崎
 310番地

★修学旅行（京都・奈良方面）

2月5・6・7日、2年生は京都・奈良方面への修学旅行に行きました。早朝5時過ぎ、上福岡駅に集まる葦中生たち。どの班も時間通りに東京駅に集合できました。京都駅から近鉄奈良駅まで電車で向かい、奈良公園周辺での班別行動が行われました。鹿の姿に驚き、東大寺の大仏の大きさに圧倒された葦中生たち。班別での行動も実

生きるということ

校長 山崎 祐一

「自分には自分に与えられた道がある。

天子の尊い道がある。どんな道かはわからないが、ほかの人には歩めない、自分にはか歩めない、二度と歩めないかけがえのないこの道。広い時もある。せまい時もある。上りもあれば下りもある。平坦とした時もある。かき分け、かき分け汗する時もある。」

これはパナソニックの創業者である松下幸之助の詩集「道」の一節です。松下は10歳で和歌山から大阪に奉公に行き、幾多の苦難を乗り越え、努力と忍耐と周囲からの支援などで世界のパナソニックを築いた経営の神様と言われた人物です。この詩を3年生の道徳の授業で扱いました。授業の中で生徒たちに問いました。「世界のパナソニックを努力と忍耐で築いた松下幸之助は、なぜ自分には与えられた道があると一番に書いたのだろうか。」

ある生徒は「努力だけでは解決できない問題や災難が出た時、他の人の応援や信じられない幸運が救ってくれたから」またある生徒は「生まれてから今日まで

の出来事や環境はたとえ辛くても全てに意味があり、松下の未来に役立つていたから」「数々の困難に立ち向かった努力や忍耐も全て天から与えられた道と感じたから」・生徒たちの感想には本当に圧倒されました。

修学旅行での話です。宿泊先のお宿に食事をお世話する一人の女性がいました。年齢は20歳代半ばくらいで名札には中国名が書かれていました。話を聞くと彼女は中国の雲南省出身で来日して3年、2年間日本語学校で日本語を学び、今はこのお宿で働いています。雲南省は中国の山岳地帯にあり、4000m級の山々が連なる地域だそう。来日してから言葉や習慣や文化の違いに苦しみ、辛い思いや苦

勞の連続で心が折れる日々だったそうです。今も中国にいる母には毎日電話をしながら心の安定を保っていると言います。それでも彼女はここ日本が自分の夢を実現させてくれる場所と覚悟を持ってこの仕事に全力を注いでいると話してくれました。

時代もお国も違うとはいえ、松下もその女性も一人で故郷を離れ、自分の夢のために見ず知らずの遠い地で働きました。先の見えない不安と闘いながら努力と忍耐を積み重ねた日々は、

時代が違えども全く同じです。不思議と松下幸之助と彼女が重なって見えました。そして「〇〇さん、今の辛さや苦勞は必ずあなたの未来や人生にとって貴重な経験になるよ。この状況はあなたの未来を輝かせるための通る道なんだよ。今そこを歩んでいるのだから何も心配する事はないよ」・彼女の目には大粒の涙が溢れていました。

若い頃、人生は努力で切り開けると信じ運命など信じない自分がいました。今は違います。還暦を過ぎた今、松下幸之助の思いを何となく感じられる自分があります。高校入試で不合格を経験した事は生徒理解に大いに役立ちました。大学時代、偶然に出会ったマジックサークルは生徒との最良のコミュニケーションツールとなりました。縁もゆかりもないふじみ野市に勤務して素敵な出会いや数々の思い出が今の私の財産となっています。今日までの全ての出来事には無駄は一つもありませんでした。まさに天に仕組まれた様な日々を歩んでいます。花は種類が違っても必ずその季節に花を咲かせます。他人と比較して将来を心配する必要もなく、誠実に生きさえすれば必ずその人に合った道が拓けると信じています。慌てずゆったりと穏やかに生きる事。いつも忘れずにいたいです。

的確で見事でした。夕食後の学年レクは物凄い盛り上がりでした。2日目はタクシーでの班別行動で計画に沿って神社や仏閣を訪れていました。途中、想定外の事態に遭遇した班もありましたが、柔軟で的確な判断により行動計画を修正して克服しました。夕食後には聖護院での座禅体験を行いました。普段の居住環境とは全く異なる宿坊の中で生徒と教職員は貴重な座禅を体験しました。お坊さんの説法を聞いた後葦中生は座禅を通して自分の心と向き合いました。3日目は厳しい寒さの中嵐山方面での班別行動を行いました。帰りの新幹線の中も節度のある態度で一般の方々に配慮していました。

御殿荘での宿泊はとても快適なものでした。一昨年完成したお部屋に宿泊できた班や食事の豪華さに驚く生徒の姿を見る事ができました。そうした中で計画された役目や取組を遂行する葦中生は実に頼もしかったです。今までの準備と生徒の意識の高さが生んだ珠玉の充実した3日間でした。

★新入生体験入学

2月27日、本校に令和8年度入学予定の元福小・西小・上野台小の6年生たちが来校しました。進路が確定した3年生の進行から校内見学や中学校生活の説明そして出合いを深めるエクササイズが行われました。緊張気味の6年生の表情に笑顔が浮かびました。

★薬物乱用防止教室

2月3日、3年生を対象に本校体育館にて埼玉県警察非行防止指導班の職員を講師に招いて薬物防止乱用教室を行いました。中学校卒業後、社会に様々な誘惑がある中、薬物の恐ろしさや身近に迫る現実を学びました。薬物と無縁な人生を送れる事を願っています。

★学年末試験

2月12・13日は3年生、19・20日の両日は1・2年生の学年末試験が行われました。特に1・2年生はこれまでの学習の成果を発揮しようと最後まで問題集や教科書に目を凝らす姿が多く見られました。最後まで諦めないで頑張る姿に感動しました。

★新入生保護者説明会

2月6日、令和8年度に本校に入学する予定の保護者を対象に新入生保護者説明会がオンラインで配信されました。本校の生活や学習や部活動等の説明が各担当者から行われ、ご視聴していただきました。

★管理職による道徳授業

1月より管理職による道徳授業が行われました。校長は3年生・にじいの学級、教頭は3年生対象に独自の教材を選んで授業しました。生徒たちは管理職による授業にとっても意欲的に参加していました。校長は松下幸之助の詩集「道」を通して生き方を共に学び合いました。

★県公立高校入試

2月26・27日、県内一斉に県公立高校入試が行われました。早朝より引き締まった表情で受験会場に向かう葦中生の姿を目にしました。この一年間、この日のために努力してきた成果を存分に発揮する事を祈りました。尚、26日は学力試験、27日は実技検査・面接試験が行われました。

★樹木伐採作業

2月17日、PTA・健全育成会・おやじの会が中心となつて道路沿いの樹木の伐採作業が行われました。長年手つかずの状態であった樹木がともすつきりしました。防犯上や交通安全上でもその効果が期待されます。ありがとうございます。

★保護司講演会

2月10日、3年生対象に2名の保護司による講演会が行われました。卒業後、様々な誘惑や勧誘等で犯罪に巻き込まれる危険性や闇バイト等の事例を説明していただきました。

※つれづれなるままに・・・

今の世の風潮として各校のPTA活動の縮小や廃止等が話題となっています。市内でもその流れを受けて活動自体が変化した学校も見られます。各校それぞれの事情があつての変化だと受け止めています。本校はその流れとは一線を画する状況が生まれています。越川会長様をはじめ本部役員さんや各組織の役員さんたちが精力的に活動しています。ここ3年間でも2枚の拡大卒業証書の作成、悩みや困り事を語り合う年2回のスマイルームの実施、七夕飾りでの受賞、好評の制服リユース販売、葦原祭での地元楽団とのコラボ、あしはらスポーツフェスタでの運営・カレー提供・・・そこに健全育成会やおやじの会や地域の皆様が加わり更に年10回以上の除草伐採の実施や葦原中学校区4校の親睦の場の設定など大変活発な活動を展開しています。

社会状況が大きく変化する今、PTA活動や地域活動を維持・発展させる事の難しさは誰もが感じていると思います。だからこそ今の本校が保護者・地域に支えられている恵まれた環境に心から感謝しています。子は学校・家庭・地域で育つと言われていきます。いかに世の中が変化しても保護者や地域の皆様から愛され信頼される葦原中づくりは今後も日々精進してまいります。

★3・4月の学校等の予定

- 2日 (月) あいさつ運動①
スクールカウンセラー来校日
- 3日 (火) あいさつ運動②
三送会装飾設置・会場づくり
2年生全国学力調査事前調査
- 4日 (水) 3年生を送る会
- 5日 (木) 3年生福祉体験学習
PTA本部会
- 6日 (金) 公立高校入学許可候補者発表
- 11日 (水) 3年生給食最終日
卒業式予行
- 12日 (木) 卒業式準備 (PM)
- 13日 (金) 第55回卒業式
- 16日 (月) スクールカウンセラー来校日
公立高校欠員補充開始
- 18日 (水) 第4回学校運営協議会
- 19日 (木) 1・2年・にじいの学級
保護者会・授業参観
- 23日 (月) 専門委員会 (後期最終)
- 24日 (火) 短縮④・給食最終日
- 25日 (水) 短縮③
市内小学校卒業式
- 26日 (木) 令和7年度修了式・表彰式
- 27日 (金) 学年末春季休業日 (〜7日)
- 4月8日 (水) 令和8年度入学式・始業式

★令和8年度・学校運営協議会委員

- (会長)
- (コーディネーター)
- (委員)